

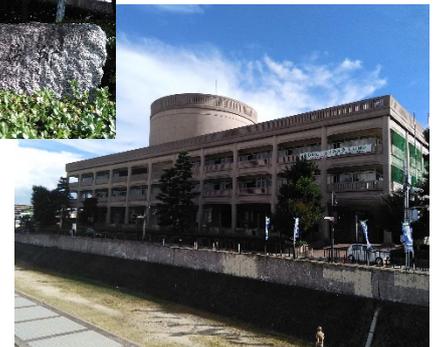
宝塚 市章と市歌

宝塚市は、市制が発足した昭和 29(1954)年 4 月 1 日を前に、市章と市歌を公募した。一般募集審査会は、宝塚新温泉で行われ、市歌 226 点、市章 1620 点の中から選ばれた。

市章は、「タカラ」の意味を表し、真ん中の太い線は、武庫川を挟んで合併した川辺郡宝塚町と武庫郡良元町の融和を意味する架け橋を表現したものである。横浜市の小島敏夫さんの作品である。

また、市歌の作詞は、和歌山県の西川好次郎さんの作品、作曲は宝塚歌劇団の作曲家、酒井協さんが手がけた。「市制祝賀行事」で市民に市歌が披露された様子を「宝塚市報(当時の宝塚市の広報紙)」の創刊号は、次のように伝えている。

『宝塚市民として一生に一度のこの佳き日に巡り会えた喜びは、期せずして 4 万市民の一人々々に、非常なる興奮を与え、市内は歓喜の大渦に巻き込まれ、宝塚は隅から隅まで空前の賑わいに浮き立った。引き続いてステージには、緑の袴の歌劇生徒 40 余名が整列した。逸早く制定された市歌の発表である。明るい華やかなメロディを初めて聞く参列者の顔は満足げにほのか恍惚と打うなずく。』。(略あり)



宝塚市東洋町 1-1



宝塚市歌

西川好次郎 作詞
酒井協 作曲

Moderato

みよおどる ひかりとゆめとよ
のあさの さやかないぶき
あ あ こーこーにむこのながれも
はゆるまで かがやくみやこ うるわしや た
からづか しのこのわかさ

- 一、見よおどる 光と夢と
世の朝のさやかな息吹
ああここに
武庫の流れも 映ゆるまで
かがやく都 うるわしや
宝塚市のこの若さ
- 二、吹き通う 世紀の風よ
うらかわす文化の脈よ
ああここに
丘もまたも揺れたちて
伸びゆく都 たくましや
宝塚市のこの力
- 三、つらなるはみどりの起伏
ただようは希望の湯の香
ああここに
明日を呼びつつ人の和の
ほほえむ都 たたえよや
宝塚市のこの栄

